

ライダーの聖地 第1番 金城オートバイ神社

バイクに乗る人、馬に乗る人、自転車に乗る人、これを皆、ライダーという。

第1番金城オートバイ神社は、すべてのライダーの安全祈願と交流の場として、全国オートバイ事業協同組合連合会（AJC）の企画により、この地に建立されました。

ここ堂床山（おぼせやま）の入口にある「かなぎウエスタンライディングパーク」は遠く中国山地の山並みを眺めながら、自然の中で馬とふれあえる乗馬施設です。古来より神様は馬に乗ってやってくると言われ、馬は縁起のよい動物とされてきました。また「馬は人を踏まない」「突進しても決してぶつからない」と言われ、馬の脚に使われている蹄鉄は交通安全のお守りや、幸運をもたらすアイテムとして知られています。鉄馬（アイアンホース）と言われるオートバイをこの馬たちがお出迎えし、ライダーの無事と安全を見守り幸運をもたらしてくれること願ひ、この地に第1番となるオートバイ神社が作られたのです。

社と共に金城オートバイ人神社のシンボルマークも作成されました。縁起のよい馬と遠くに眺める美しい日本海の波、その周りをチェーンが繋がりに輪とつながっています。ここを訪れたライダーの輪が広がり、また次の聖地へと繋がっていくことをイメージしています。次の聖地にはどんな景色がまっているのか、旅への思いが無限に広がります。

ここ島根県西部は石見地方と呼ばれ、夏は美しい日本海の海水浴場に、冬はスキー場や温泉に多くの方が訪れます。海と山と多くの自然に囲まれ、漁業、窯業の町として知られています。この堂床山は浜田市金城町に位置し標高約460メートル、天気の良い日には日本海と遠くは鳥取県の大山までをも見通すことができます。時間により早朝の雲海、日本海に沈む夕日、夜には満天の星空を観察するのに最適なスポットとなっています。

金城オートバイ神社の屋根には、特有の赤褐色で知られるこの地方の石州瓦（いしゅうわ）が使われています。ここから眺める村落に、赤く輝く家々の屋根を多く見ることが出来ます。この瓦は、100年の風雪に耐える強さを持った瓦として全国の神社仏閣にも使用され、この地の家屋の守り神として古くから使われてきたものです。ここを訪れるライダーを力強く守ってほしいとの願ひが込められています。